

令和4年度 評価結果

幼保連携型認定こども園
大和郡山カトリック幼稚園

1. 園の教育目標

キリスト教の愛の精神に基づき、乳幼児たちが、神様から与えられた心身の能力を活かし、個性豊かに主体的に行動できる人になっていく様に最適な環境を整え、一人一人の心に寄り添いながら心を込めて保育を行う。また、他者を思いやる愛の心や、他者の失敗を受け入れられる寛い心等、豊かな人格を育てていくことを教育目標とする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- * 保育環境（幼児の意欲と積極性の向上）
- * 職員の研修（保育現場での実践と応用）
- * 安全管理（今年度は防犯・避難訓練を強化する。あらゆる場面を想定して取り組み職員・園児の安全対応能力の向上を図る。）
感染防止についても換気・手洗い・消毒の徹底を引き続き行う。
- * 幼保連携型認定こども園の理解と情報提供（認定を受ける為の必要書類・与薬依頼書等の説明）
- * 教育・保育の充実した内容の為の職員の連携
- * 食育の向上（管理栄養士や調理師による食育と、子ども達と野菜を育てる）

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

| 評価項目 | 取り組み状況 |
|--------|---|
| * 保育環境 | <ul style="list-style-type: none">● クラス運営は担任3人体制で、子どもの成長に最善となるような関わり、配慮を心掛けた。特に、発達に心配を抱えている子ども達にもふさわしい支援を行えるように療育施設や保護者との連携を図り、話し合う中で保育を行えた。● 基本的な生活習慣が身につくよう、めりはりをつけた保育を行。● 園庭の木々、芝生の山、花壇やプランターの季節の花や野菜を見て、子どもたちが季節感を感じ取ったり、お花や野菜の形や色、味を楽しめる様にした。● 子ども達の秩序感に沿う部屋づくりのため、保育室内の清掃の他に、用具の整理整頓や美化を心がけた。又、共有部分の廊下等も清掃に気を付けた。● 園の重点目標や日常の教育・保育・園外保育を見直したり、行事を計画した。● 自然との触れ合いや、四季の移ろいを感じられるように郡山城址によく散策に出掛けるように努めた。● 園庭での活発な遊びができるよう、危険な箇所がないか等、毎日点検を行い園庭遊び時の職員の見守りする位置に気を付けた。● 個々の子どもの長所やすぐれた能力（運動能力も含む）を常に保育者全員で把握するよう努め、成長を促すよう心がけた。 |

| | |
|--------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 生活に必要な身の回りの事を、自分で行う力をつけるよう職員同士での話し合いの時間を取るように心がけた。 ● 自分の思いを言葉で伝えたり相手の思いを知る中で、友達との関わりを深め遊ぶことを楽しめるようか関わり方を行った。 ● 年間を通して縦割り保育を行い、様々な場面で思いやり、繋がり、年長者への憧れが育つよう取り組んだ。 ● 友達との繋がりを広げ、集団で活動することを楽しめるような保育を取り入れ特に、行事の時には、それらの目的を大切にした。 |
| *食育 | <ul style="list-style-type: none"> ● 管理栄養士や調理師さんとの給食会議を毎月行い、子ども達の給食時の様子や、献立によつての食べ方の違い等、細かく話し合いながら、進めていけた。特に食べやすさ（薄味や出汁の味）・彩り・季節感等を大切にされた給食になっているかに重点を於いた。 ● 又、アレルギー等個々の体質に合わせた食事を提供できているかにも配慮をした。配膳時に職員側も間違いがないように最大限に注意をした。 ● 食事のマナーを身に着け、コロナ禍であり、パーテーションを取り付けてではあったが、食事を味わい楽しめるような雰囲気づくりをした。 |
| *職員の研修 | <ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍だった為、ズームでの開催がほとんどだったが、出来る限り、園のパソコンで視聴し、みんなで研修を行った。 ● 特に夏休み期間や冬休み期間にある研修は職員の時間が取り易い為、積極的に参加をした。又、カトリック研修は全員受講することが出来るようにした。 ● 研修後には、研修レポートを各自提出して、レポートを全員で見て学ぶことが出来るようにし、研修の成果を共有した。またそれに基づいて、保育にすぐ活かせるものについては取り入れていった。研修を受けたことにより様々なヒントを得て自己啓発につながった。 ● 令和4年度は、多様な発達障害のある子どもたちに適切に対応するため、療育施設の訪問指導の受け入れや、地域の保健センター、保護者との話し合いを密に取り、良い支援できる様に留意した。 ● 今後も、保育に還元するもののみならず自己成長するため、また専門性を高めていける様に、保育を通して子どものニーズを知り、子どもから学べる姿勢を養っていく必要がある。 ● 日頃の保育活動の中での反省点、問題点、課題などを職員会で取り上げ、意見を交わして意識を高めておくことが研修会をよりよいものにする土台となっていることが確認できた。特に、ニュースになっている様な虐待に繋がるようなことをしていないか、報道が出るたびに振り返った。 ● 保護者懇談会などで、保護者の子育て観を聞き取り、連携して、必要な指導ができるように教員一同で話し合った。 |

| | |
|--------------|---|
| <p>*安全管理</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全、防犯や道路への飛び出し事故防止、園の門扉の開閉時間などについて保護者に注意を喚起し、インターホンでの対応だけでなく、聞き取れない時や、見慣れない顔の時などには、職員が門まで出て確認を行った。 ● 交通安全指導（大和郡山市企画）を実施し、交通標識、信号を守る、横断歩道、踏切の渡り方、知らない人についていかないなどの指導を受けた。 ● 園内での転倒やぶつかりなどによる救急の処置（病院への搬送も）について、職員で徹底を計った。また、室内、室外での園児の行動や状況を常に把握し、事故予防を行うことを確かめ合った。 ● 火災の発生を防いだり、地震など不測の事態・事故への備え、心構えについて命を守る視点から話し合った。避難訓練（火災、地震を想定）年12回実施した。 ● 出欠確認については、バス通園の子・徒歩通園の子と、各クラスで毎日確認をしており、9時30分時点で、出欠申請ナビや、電話連絡のない子どもについてはこちらから連絡を必ず取るようにしてクラス担任と情報を共有した。 ● 特に障害や発達に遅れがある子には、家庭（親）と密に連絡をとり、専門医の見解も踏まえてその子に合ったベストな指導方法を検討した。 ● 食物アレルギーのある子には、細心の注意を払い、除去食、代替食などに配慮した。食事中にも職員がついて誤食しない様に配慮した。 ● 新型コロナウイルス感染のパンデミックが続き、園内でのクラスター感染防止のための対策、手立てについて検討を繰り返し行なった。奈良県の打ち出される方針に従って、速やかに必要なことを行った。 ● 休園中の園児の健康状態、様子を知るため、電話連絡を取り、不安を和らげるよう努め、励ました。 |
|--------------|---|

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| 結果 | |
|-----------|--|
| <p>良好</p> | <p>こども園への移行に伴う新たな取り組み</p> <p>①避難訓練 年12回 ②新しい散歩ルート ③新しい遠足の場所 ④赤十字社と連携を取って、子ども達への命の大切さを教えに来て頂く ⑤郡山警察署に招かれて、交通安全の学びに参加する ⑥感謝の訪問（コロナ禍の為に手紙とメダルを郵送・給食室の方々には、2歳児・1歳児さん達で感謝の言葉を伝えた）</p> <p>こうした事を職員一同が一丸となって取り組んで行けた。</p> <p>園児たちが日々意欲的に活動に取り組めるよう、秩序感があり、めりはりのきいた保育ができるよう環境を整えることを重点に努めた。</p> <p>日々の保育では、園児の安全・安心のみならず、保育の充実のためにも一人一人の園児を常に大切に見守る姿勢や、子どもとともに感動や喜びを共有することに重点をおいて取り組めた。</p> <p>こども園としてのソフト面（職員教育・保育内容）に力を入れていたが、ハード面</p> |

| | |
|--|---|
| | にも同時に(必要書類)の徹底が必要である。郡山市の他の子ども園ともしっかりと話し合って、情報を共有し、徹底を図る。 |
|--|---|

5. 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|------------------|---|
| * 職員の研修 | <ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭が保護者のニーズを共有しながら園児の特性や個性を尊重し、子どもを生きた教材として学び取り実践していくように努める。 ● 縦割り保育・横割り保育をしているので保育教諭同士のが子どもについての状況や観察した内容をお互いに交換し、連携を密にして行く。 ● 保育教諭として子どもに関わっていく中で、子どもへの関わりが子どもの人権を尊重した関わり方になっているか等、日々振り返りの時間を取り大切にする。他の先生からの考えもしっかり聞く。 ● モンテッソーリ教育の「モデリング」の精神を自覚し、保育教諭が子のモデルになるように言葉づかい、行動にわたり、その使命を達成するよう努める。 ● こども園としての必要書類の徹底を図る。 |
| * 保育環境の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● 園児が日々新しい発見、気づき、感動が得られるよう、保育教諭が園児一人一人の気持ちに寄り添い、愛情を込めて向き合い、子どもと喜びを共にする。 ● 絵画・英語・音楽の専門教師と連携を計り、日常の保育に見られない子どもの特徴や様子なども掌握し、子どもの情操、能力、素質などについても意見交換を行う。 |
| * 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全、地震、火災など、機会があるごとに指導し、子どもたちの意識に常にいだかせ身を守れるようにする。 ● 避難訓練を更に多様化させ、あらゆる場面を想定した訓練を行う。 |
| * 保護者と園との密な協力、連携 | <ul style="list-style-type: none"> ● 園の教育方針と園活動について、保護者の理解を深めていただけるよう、園からの情報発信をお手紙のみではなくて、「いくみ会」やホームページなどを通して理解と協力を求めて行く。特にコミュニナビを使つてのメール連絡等もフル活用して、たくさんの保護者の方が目を通していただけるようにする。 |
| * 情報の共有、発信 | <ul style="list-style-type: none"> ● 特に台風・地震・不審者等、緊急事態が起きた時の連絡方法をしっかりと伝えていく。 |

6. 関係者の評価

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 沢山の職員がそれぞれ明るく元気な笑顔で仕事をしており、安心して預けることが出来る。 ● 各クラスが3人担任制になっており、子ども達が毎日クラスの中だけでも沢山の先生から声を掛けてもらっていて喜んでいる。又、横割りになった時には、他の先生からも関わりがあり先生達 |
|---|

みんなで見守られているようで嬉しい。

- 安全については、防犯や火事・災害などの対応策が細かく取られているようで、安心している。不審者については、防犯カメラも付けられて、いつも施錠しているので安心である。しかし、登降園時に、次の保護者の為に扉を開けたままの人がいることがあり、そのあたりを注意してもらいたい。
- 障害や発達の遅れている子にも配慮がなされ、教員の配置にも配慮されている。
- 色々な専門指導や、ファミリーデーなどの楽しい行事、モンテッソーリー教育も取り入れてくれているところがとても良い。子どもたちの自立と自律心を養うための関わりをしてもらっているのが嬉しい。
- こども園になってからは特に、ここの園に入園させたいとの希望を持っている方の声をよく聞くようになった。入れなかった時には非常に残念がっていたので、もう少し、入れる枠を増やしてもらえないだろうか。
- ここのこども園には、郡山市内のいろんな校区から来ているので、コロナ禍だったのでしかたがなかったかもしれないが、今後は、年長児が進学先の小学校と繋がれる機会を増やして欲しい。又、小学校のみならず地域社会と園と保護者のつながりの機会や、連携を増やしていけるともっと良くなると思う。
- コミュニビの活用の幅が広がり、いくみ会からの案内やアンケートと取る時にも利用が出来て、大変便利になった。以前であれば、印刷物だったので時間が掛かっていたが、直ぐに返信が出来て役員活動がスムーズに出来るようになったので、大変便利になった。
- コロナ禍により各種の園行事が縮小されたことが、仕方がない事だったが残念だった。
- 保護者有志によるスマイルサークル活動も楽しく参加できて良かった。